

未来に架けろ！完成までを楽しむはしづくり ～小戸之橋架替え事業～

佐土原 慎一 氏

(宮崎市都市整備部市街地整備課
主任技師)



皆さんこんにちは。私、宮崎市都市整備部市街地整備課 佐土原と、同じく市街地整備課で今回この資料を作った尾鼻と申します。よろしくお願ひします。

私の方からは、「未来に架けろ！完成までを楽しむはしづくり」と題しまして、小戸之橋の事例紹介をさせていただきたいと思ひます。それでは小戸之橋の架替え事業について簡単に説明させていただきます。

小戸之橋の歴史

小戸之橋は大淀川下流に位置し、宮崎市の中心部を囲む環状線として重要な役割を持つ道路の一部です。取り壊す前の小戸之橋は、昭和 38 年に建設されましたが、その時は、車道のみでした。小戸之橋の歩道が出来たのは、それからさらに 10 年後ということになっております。

以前の小戸之橋の橋は、築 50 年が経過し老朽化が進んでいました。また、片側歩道で道路の幅も狭く人々の安全性が確保されていない状況が続いており、こうした問題を解決するために小戸之橋の架替え工事に着工することとなりました。

今回、新たに架替える橋は、橋の長さが 506 m、橋の幅が 16 m です。3 m の車道が二車線、3.5 m の歩道が両側にできることとなります。下流に架かる赤江大橋をイメージしていただければと思っております。

小戸之橋の歴史

昭和38年
小戸之橋暫定開通
(歩道無し)

10年後に片側歩道が増設

小戸之橋の歴史

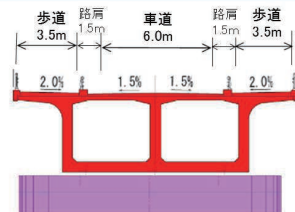
小戸之橋架替え事業

老朽化

幅の狭い道路

架替えの要因

小戸之橋架替え事業



橋梁断面図

架け替え前後の比較

	橋長	幅員
架け替え前	503m	8m
架け替え後	506m	16m

両側歩道になって
幅員は倍に

架替え前後の比較

小戸之橋って？



宮崎市中心部マップ



工事前の小戸之橋

小戸之橋の位置と工事前の橋

架替え工事の流れ

これまでの工事について説明させていただきます。

平成 25 年 11 月に通行止めにした後、同 25 年度に南側半分、26 年度に北側半分の撤去いたしました。昨年の 11 月からは、新しい橋の工事に着手し、橋の柱 2 つと工事用の仮橋を設置したところでございます。

工事が順調に進めば平成33年3月に完成する予定ですが、通行止めが6年半と長く続くこととなります。その理由は、橋の柱の部分などは雨が多く降る6月から10月の間は工事ができないことと仮橋を設置しないという点にあります。仮に小戸之橋の近くに仮橋を設置した場合、小戸之橋の柱と仮橋が近すぎて大淀川の水の流れを大きく妨げてしまうこととなります。しかし、通行止めは、特に周辺の住民の方々に大きな負担をかけてしまうこととなります。



工事の流れ

平成33年完成予定

小戸之橋へ、50年間の地域住民の思い

小戸之橋は、平成25年11月に通行止めになりましたが、その際、思ってもみなかった光景を見ました。前日の夜11時を過ぎ、私たちが0時からの通行止めの準備をしている時、近接する赤江大橋、大淀大橋は、あまり車は通っていないのに、明らかに小戸之橋の車の交通量が増え始めました。そして、それは車だけではなく人々もまた次々と集まって小戸之橋を渡っていました。午前0時の通行止め直後には、多くの人々が集まってきて、大きな声で「小戸之橋ありがとう」と叫んでいました。

小戸之橋は、50年にわたり人々の生活の中の一部として、地元の人々をはじめ、皆さまに長年愛されてきた橋です。この地元の方々の自発的な出来事は、地域の方や小戸之橋に愛着や思い入れのある方が、いかに多いかということを実感させてくれるものでした。そのことは、私たち工事を行う者にとって尊重すべきことであり、橋が完成するまでの間、その思いを繋いでいくことが非常に重要だと考えました。

こうした背景がありまして、橋が完成するまでの通行できない時間をネガティブにとらえるのではなく、むしろ橋が完成するまで皆で楽しもうということで、さまざまな取り組みを行うことにしました。

通行止め後のイベントで

最初に紹介するのが、平成25年11月2日に行われた「ありがとう小戸之橋さよならフェスティバル」です。

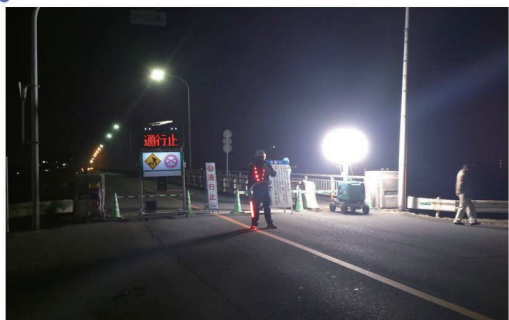
本日ここにいらっしゃるの方々の中には、このイベントに参加された方もいらっしゃるのではないかと思います。このイベントには、1万5千人もの人々が集まりました。橋の上と城ヶ崎側の河川敷では、フードブースやトラック市、戦隊ショーなどのほか、地元神社の神輿の復活もあり、大いに盛り上がりました。

また、橋の中央部に過去の小戸之橋の写真を展示したところ、多くの人々が足を止めて小戸之橋の移り変わりや思い出を語りあっている姿が見られました。改めて小戸之橋が多くの人に愛されてきたことを実感しました。

小戸之橋の架替え事業には、多くの皆さまにご協力いただいているところでありますが、この計画の当初から中心となってお尽力いただいている方の一人に、熊本大学の小林先生がいらっしゃいます。この写真は、平成26年10月に地元の小学校3年生を対象に行った特別授業の様子です。この子ども達が、高校1年生になる時に小戸之橋は完成します。通学や通勤などで小戸之橋の架替えで、新しい小戸之橋をもっとも利用することになるであろう宮崎の未来を支えるこの子どもたちに、小戸之橋の架替え事業を心に刻んでほしいという小林先生の熱い思いから現実しました。

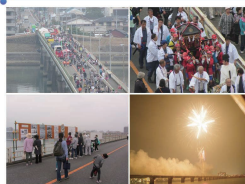
この授業では、先生が橋をテーマに世界各地の面白い橋、不思議な橋、そして新しく出来る小戸之橋について話をさせていただきました。そのユニークな授業に子ども達は、身を乗り出して話を聞いておりました。

小戸之橋通行止め(H25.11.1)



小戸之橋通行止め H25.11.1

ありがとう小戸之橋さよならフェスティバル



ありがとう小戸之橋さよならフェスティバル

小学校での特別授業(H26.10)



小学校での特別授業

橋を半分撤去した段階で行った「小戸之橋フォトストーリー」は、平成26年11月小戸之橋の架替えと共に、人々の現在と未来を繋ぐをコンセプトにした取り組みです。

このイベントでは、まず替わる前の小戸之橋の上でさまざまな年代の人々が集まり、いろんな表情を、プロのカメラ

ラマンが記録として写真に残します。そして、新しい小戸之橋が完成した時に、再び橋の上で同じ人が集まり写真を撮ります。替わるまでの6年という年月の間に中学生は成人し、若い夫婦の間には子どもが生まれているかもしれません。小戸之橋が完成する時に、さまざまな人々の、さまざまな時間の移り変わりを写真を通じて楽しみたいという取り組みです。

この小戸之橋フォトストーリーと同時期に行ったのが「小戸之橋魚群アート」です。

宮崎市で活躍されている若手のアーティストが集まり、半分撤去された橋の上という大きなキャンバスに、躍動する魚の群れをダイナミックに描いてもらいました。

この写真は一般公開し、多くの人々に小戸之橋に描かれたアートを楽しんでもらいました。この一風変わった取り組みはインターネット上でも話題となり、全国のニュースを取り扱うあるサイトでは、全国のフォトニュースランキングで第3位になっておりました。



小戸之橋フォトストーリー

小戸之橋魚群アート

地域活性化の取り組み

こうしたイベント以外にも、小戸之橋架替えを地域活性化につなげる取り組みも行ってきました。

これは、「小戸之橋南北沿線のエリアマップ」で地元の店舗をはじめ、地域の魅力を発信するために作成いたしました。近くに住んでいる人でも知らなかった素敵なお店が、お店の方々と共に紹介されています。

このマップは、それぞれの店舗に配布しており、町の魅力向上のために利用してもらっております。小戸之橋の周辺には、本当に魅力的なお店が多くありますので、興味がある方は宮崎市役所市街地整備課にも置いてありますので、ぜひ手に取って見ていただければと思います。

この写真は、「小戸之橋ストリートフェスティバル」というイベントです。昨年(平成27年)11月に地元の方々が中心になって行われたイベントで、小戸之橋の紹介だけな



「小戸之橋南北沿線のエリアマップ」

「小戸之橋ストリートフェスティバル」

く魚群アートの時に活躍していただいたアーティストの皆さんと地元の商店がコラボレーションした素敵なポスターの展示などもありました。

中でもアーティストの皆さんが企画した、無地の魚の形をした複数のパネルに子どもたちに自由にペイントをしてもらい、そのパネルを合わせるとこのような大きなクジラになるという、面白いコーナーもあり、参加した子どもたちはペンキまみれになって楽しんでいました。

地元主体の持続的な取り組みに期待

まとめになりますが、先ほど紹介した小戸之橋ストリートフェスティバルは、地元の方々が主体となって実行されたものです。

私は、個人的に思うのですが、市の職員が法令などの色々な制約の中で考える企画より、地元住民の方が自由の発想の元に企画したイベントの方がきっと楽しいものになると思います。今後こうした地元主体のイベントが輪となり広がってくれば、多くの人々の発想でより面白いイベントも増えていくのではないかと思います。

このような地元主体の持続的な取り組みが、小戸之橋の架替え事業を起爆剤として地域おこしや活性化につながる事ができれば、「未来に架けろ！完成までを楽しむはしづくり」と題して発表させていただきました本取り組みは、これからの公共事業が目指すべき道の一つではないかと考えております。

最後になりますが、こうした取り組みは、熊本大学の小林先生をはじめ多くの関係の皆さまからのご提案やご協力のおかげで企画化することができました。この場を借りて感謝申し上げます。

以上で私の発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

おわりに

住民主体のはしづくりをきっかけとしたまちづくりへ

